

【2020年度/専門科目領域/専門科目群/福祉心理学科】

科目名		ナンバリング	区分(必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
精神保健福祉援助演習Ⅲ			選択	2	4	後期(集中)
担当教員		研究室	電子メールID		オフィスアワー	
齊藤 晋治		B308	s-saito		水曜・木曜 12:10~13:00	
授業の目的・概要		<p><目的> 精神保健福祉援助実習で体験したケースから理論と実践の統合について理解する。また精神保健福祉援助実習で体験した様々なケースから、人権を尊重し高い倫理性と知識、技術を用い、これまで座学で習得した理論と実習で体験した実際の援助技術の統合を図る。</p> <p><概要> 精神保健福祉援助実習終了後、Teamsを活用し、同時双方向授業で行う。また集中講義で実施する。授業では、各々が整理した実習中の事例を基に、事例検討、当事者理解、支援計画の作成の三段階で展開する。</p>				
学習上の助言		実習での事例を事前に整理しておくこと。積極的な授業内での発言を求める。				
教科書		テキストは使用しない				
参考書		授業内で適時紹介する。				
学生が達成すべき行動目標					関連卒業認定・学位授与方針	
①	精神保健福祉士の活動内容が理解できる。				HSU(2) 精(2)	
②	精神障害者の権利擁護と精神保健福祉士の役割が理解できる。				HSU(4) 精(1)(2)	
③	精神障害者の支援計画が作成できる。				HSU(3) 精(2)(3)	
④						
⑤						
⑥						
授 業 計 画						
回	学習内容等	授業方法	学習課題・学習時間(時間)			
1	授業オリエンテーション:授業概要、学習方法を理解する	登校型授業 講義	実習事例をまとめる			4
2	実習事例の整理を行う①	登校型授業 GW・演習	実習事例をまとめる			4
3	実習事例の整理を行う②	登校型授業 GW・演習	実習事例をまとめる			4
4	実習事例の整理を行う③	登校型授業 GW・演習	実習事例をまとめる			4
5	実習事例を基にした事例の検討を行う①	登校型授業 GW・討論	社会資源について整理する			4
6	実習事例を基にした事例の検討を行う②	登校型授業 GW・討論	生活の困難さを理解する			4
7	実習事例を基にした事例の検討を行う③	登校型授業 GW・討論	生活の困難さを理解する			4
8	実習事例を基にした事例の検討を行う④	登校型授業 GW・討論	生活の困難さを理解する			4
9	実習事例を基にした事例の検討を行う⑤	登校型授業 GW・討論	生活の困難さを理解する			4
10	事例を基にした支援計画を作成する①	登校型授業 GW・PBL	マクロ的支援を理解する			4
11	事例を基にした支援計画を作成する②	登校型授業 GW・PBL	マクロ的支援を理解する			4
12	事例を基にした支援計画を作成する③	登校型授業 GW・PBL	マクロ的支援を理解する			4
13	事例の発表を行う①	登校型授業 発表	プレゼンテーションの確認			4
14	事例の発表を行う②	登校型授業 発表	プレゼンテーションの確認			4
15	まとめ	登校型授業 講義	事例を通じた総合的な復習			4
試						

【2020 年度/専門科目領域/専門科目群/福祉心理学科】

達成度評価								
総合評価割合 (%)		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	合計	
		0	20	60	10	10	100	
総合力指標	知識・技術力	0	5	10	0	0	15	
	思考・推論・創造する力	0	5	10	5	0	20	
	協調性・リーダーシップ	0	0	10	0	0	10	
	発表・表現伝達する力	0	0	10	0	0	10	
	コミュニケーション力	0	0	10	0	0	10	
	取組みの姿勢・意欲	0	0	0	0	10	10	
	問題を発見・解決する力	0	10	10	5	0	25	
評価のポイント						フィードバックの方法		
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点						
試験	①							
	②							
	③							
	④							
	⑤							
	⑥							
レポート	①	✓	実習で体験したかかわりを基に、実習事例を作成する。ケースの家族関係、生活歴、支援の状況など必要な情報が整理されているか、また今後の支援計画の道筋が記載されているかで評価を行う。				授業中に返却、指導を実施	
	②	✓						
	③	✓						
	④							
	⑤							
	⑥							
成果発表	①	✓	実習事例を基に、新たな事例を作成し、それに対する支援計画をグループで検討する。グループによる事例発表を行い、総合的な理解度を確認する。				15 回目の授業の中で実施	
	②	✓						
	③	✓						
	④							
	⑤							
	⑥							
ポートフォリオ	①		支援計画作成のためには、当事者、社会のアセスメント力、既存の資源の理解が必要である、アセスメント情報における項目の収集、社会資源情報の収集・整理を手順をおってできているか、情報の取捨選択ができているかを評価する。				授業内で適時実施	
	②							
	③	✓						
	④							
	⑤							
	⑥							
その他	①	✓	授業参加のための準備、整理ができているか、毎回確認をする。				授業内で適時実施	
	②							
	③							
	④							
	⑤							
	⑥							
備 考								
<p>・今後の新型コロナウイルス感染症の状況など社会情勢によって再度シラバスの変更がありえますので、ご承知のほどお願いいたします。</p> <p>全 15 回が登校授業（対面授業）であるため、大学が示した感染症予防対策の指針を遵守すること。感染症予防対策の観点から、教員の指示に従わない行動をとった場合には受講を認めないことがある。その場合、授業は欠席として取り扱う。</p> <p>教員の実務経験：精神科ソーシャルワーカー、精神保健福祉士として 15 年の臨床経験。</p> <p>実践的授業の内容：教科書に記載されている一般的事項を教えつつ、精神保健福祉士としての教員自身の実例を示し、その実践知と教科書に記載されている理論知を比較しながら学習する。</p>								